

令和 5 年度 業務活動評価表

評価区分：一般型

業務活動名	自主防災支援		
分野別指針	暮らしを守る強靱な都市づくり		
個別計画等	消防法等	基礎事業名	火災の予防
根拠法令要綱	-		
事業期間	- ～ -	運営形態	自治事務（全部直営）

事業概要
事業概要 地震等の大規模災害に限って、豊富な経験と知識・技術を活かせる消防職員及び消防団員のＯＢにより、消防署や消防団が行う活動を支援する岡崎市消防支援隊を編成し、その支援を行う。支援隊員は、岡崎市消防本部退職者及び岡崎市消防団退団者で登録した者 編成及び人員は、21消防団管内ごとに概ね10人 計236人登録（令和5年 4 月 1 日現在） 自主的に消防職団員の活動支援にあたるもので、報酬は支払われない。しかし、活動中における怪我及び死亡事故等は、岡崎市消防団員公務災害補償等条例を準用し補償する。 対象 消防支援隊員 手段 消防支援隊の登録・脱退事務 活動のためのジャンパー・ヘルメット・編上靴・皮手袋の貸与及び助言等 意図・成果 大規模災害の発生時に、消防団員も被災者となることが考えられ、活動人員の不足が懸念されることから、この不安解消の対策として、支援隊を編成する。もって、消防活動の円滑化及び被害を軽減し、災害に強いまちづくりを進める。

指標					
定量指標	指標名	年度	2021年度	2022年度	2023年度
	- 単位：-	目標値（予測値）	-	-	-
		実績値	-	-	
		達成度（%）	-	-	
	- 単位：-	目標値（予測値）	-	-	-
		実績値	-	-	
		達成度（%）	-	-	
定性指標	2021年度達成基準	消防支援隊の入脱隊管理とそれに伴う貸与物品の円滑な管理。脱隊者から回収した貸与品を消耗程度に応じ更新を図る。			
	2021年度達成結果	消防支援隊の入脱隊管理とそれに伴う貸与物品の円滑な管理。脱隊者から回収した貸与品を消耗程度に応じ更新を図った。			
	2022年度達成基準	消防支援隊の入脱隊管理とそれに伴う貸与物品の円滑な管理。脱隊者から回収した貸与品を消耗程度に応じ更新を図る。			
	2022年度達成結果	消防支援隊の入脱隊管理とそれに伴う貸与物品の円滑な管理。脱隊者から回収した貸与品を消耗程度に応じ更新を図った。			
	2023年度達成基準	消防支援隊の入脱隊管理とそれに伴う貸与物品の円滑な管理。脱隊者から回収した貸与品を消耗程度に応じ更新を図る。			
指標分析	貸与物品を円滑に管理した。				

コスト		2021年度決算	2022年度決算
	事業費等(円)	436,550	412,050
	人員	0.15	0.05

担当所属	消防本部総務課	連絡先	21-9846
------	---------	-----	---------

令和 5 年度 業務活動評価表

評価区分：一般型

業務活動名	消防出初式実施		
分野別指針	暮らしを守る強靱な都市づくり		
個別計画等	消防法等	基礎事業名	消防体制の整備
根拠法令要綱	-		
事業期間	- ～ -	運営形態	自治事務（一部委託）

事業概要
事業概要 消防出初式は、岡崎市の消防職団員をはじめ防災関係者の士気の高揚、市民への防災思想の普及宣伝を目的に全国的に年初に開催しているもの。
対象 消防職団員及び防災関係者
手段 1月に乙川河川敷で実施する消防出初式で訓練、表彰、機械器具点検等を実施する。
意図・成果 消防出初式は、年頭に消防使命の自覚を新たにするため、岡崎市消防本部、岡崎市消防団等が一体となり実施するもので、消防機関の練成練磨を形として市民に広く披露する場であり、訓練や消防用資機材を始めとする消防力について市民に理解していただき、消防への信頼を深めていただく絶好の機会であり、消防職団員の士気の高揚、市民への防災思想の普及宣伝を目的としている。なお、平成25年消防出初式から式典中の災害発生を想定し、これまで以上に各地域における配備体制に万全を期すため、各地域ごとに消防団車両及び消防団員を計画的に待機させている。内容については、市長査閲、年頭の辞、来賓祝辞、車両分列行進、徒歩分列行進、一斉放水、救助訓練、表彰等を実施する訓練及び式典を合わせ持った活動であり、市民に対して火災予防の重要性を発信している。出初式は、消防機関の練成練磨を形として市民に広く披露する場であり、訓練や消防用資機材を始めとする消防力について市民に理解をいただき、消防への信頼を深めていただく絶好の機会であり、消防職団員の士気の高揚、市民への防災思想の普及宣伝を目的としている。

指標					
定量指標	指標名	年度	2021年度	2022年度	2023年度
	消防団員参加者数 単位：人	目標値（予測値）	1,200	-	-
		実績値		-	
		達成度（％）	-	-	
	見学者数 単位：人	目標値（予測値）	4,000	-	-
		実績値		-	
		達成度（％）	-	-	
定性指標	2021年度達成基準	消防出初式を開催し、4,000人の来場者を見込む。			
	2021年度達成結果	新型コロナウイルス感染症の発生状況を踏まえ開催中止とした。			
	2022年度達成基準	消防団員の士気高揚及び市民の防災思想の普及を図る。			
	2022年度達成結果	一斉放水等の実施で消防団員の士気を高めると共に、市民が消防車両と記念撮影できる機会を設け防災思想を普及できた。			
	2023年度達成基準	消防団員の士気高揚及び市民の防災思想の普及を図る。			
指標分析	災害現場でも必要な規律ある態度や行動を披露することにより、市民に消防業務についての理解と信頼を得るとともに、防災思想の普及宣伝を行うことができた。				

コスト		2021年度決算	2022年度決算
	事業費等(円)	0	3,432,196
	人員	0	0.4

担当所属	消防本部総務課	連絡先	21-9836
------	---------	-----	---------

令和５年度 業務活動評価表

評価区分：一般型

業務活動名	消防団連合会補助		
分野別指針	暮らしを守る強靱な都市づくり		
個別計画等	消防法等	基礎事業名	消防団体制の整備
根拠法令要綱	-		
事業期間	- ～ -	運営形態	自治事務（補助等）

事業概要
事業概要 現在の岡崎市が形成されるまでの町村合併の過程で、各町村の地域防災の担い手である消防団をそのままの形で存続させ、地域防災力の維持・強化を図ってきたことで、現在、21消防団が本市に設置されている。多団制下では、大規模災害や消防団の管轄を越えての災害時には、消防団相互の円滑な消防団活動が必要であることから、各消防団間の連携及び消防団員の資質の向上・均等化を図るため、消防団連合会を結成している。多団制消防団による活動は、地域の実情に詳しい消防団長が指揮を執ることで迅速的確な災害対応が可能で、地域と密接な関係が構築されていることから要支援者の救助活動にも優れ、自らの地域は自ら守るという消防団のモチベーションも高くなり、本市消防行政に不可欠であることから、消防団連合会に対し健全な消防団運営を行うための活動助成を行う。 対象 岡崎市消防団連合会【連合会を形成する21消防団、消防団を形成する107部（消防団の規模により編成する部の数は一律ではない）及び定員1,517人】 手段 消防団連合会に運営費、21消防団及び消防団を構成する各部（107部）に運営費を交付する。 意図・成果 消防団員には、年額報酬、出勤手当を支給しているが、消防団組織を運営していくために、岡崎市として、消防団連合会を通じて、各団、各部に運営費を交付し消防団活動を支援、健全で地域貢献の高い消防団活動により、消防団に対する住民の理解度を高め、地域における消防団員確保を推進する。（４年度事業）観閲式 理事会（年６回）消防団員表彰 広報活動（成果）消防団員の充足率も高い水準で維持され、地域住民の安全・安心な生活を支援している。（事業予算の推移）平成25年度 7,529千円 26年度 7,529千円 27年度 7,529千円 28年度 7,529千円 29年度 7,529千円 30年度 7,529千円 31年度 7,529千円 令和２年度 7,529千円 ３年度7,529千円 ４年度7,529千円 ５年度7,529千円

指標					
定量指標	指標名	年度	2021年度	2022年度	2023年度
	消防団員数 単位：人	目標値（予測値）	1,517	1,517	1,517
		実績値	1,468	1,471	
		達成度（％）	97	97	
	消防団員充足率 単位：％	目標値（予測値）	98	98	98
		実績値	97	97	
		達成度（％）	99	99	
定性指標	2021年度達成基準	消防団員の充足率を高く維持することで、消防体制を充実し、安全・安心な暮らしを守る。			
	2021年度達成結果	例年、全国における火災の原因別出火件数が上位である、「たばこ」による火災が低い件数で推移している。これらは消防団が地域で実施している広報活動の成果の一端でもあった。			
	2022年度達成基準	消防団員の充足率を高く維持することで、消防体制を充実し、安全・安心な暮らしを守る。			
	2022年度達成結果	例年、全国における火災の原因別出火件数が上位である、「たばこ」による火災が低い件数で推移している。これらは消防団が地域で実施している広報活動の成果の一端でもあった。			
	2023年度達成基準	消防団員の充足率を高く維持することで、消防体制を充実し、安全・安心な暮らしを守る。			
指標分析	消防団員の充足率、在籍率とも高値で維持され組織の充実強化は図られている。				

コスト		2021年度決算	2022年度決算
	事業費等(円)	7,287,031	7,484,593
	人員	0.2	0.2

担当所属	消防本部総務課	連絡先	21-9846
------	---------	-----	---------

令和 5 年度 業務活動評価表

評価区分：一般型

業務活動名	少年消防クラブ指導・育成		
分野別指針	暮らしを守る強靱な都市づくり		
個別計画等	消防法等	基礎事業名	火災の予防
根拠法令要綱	-		
事業期間	- ～ -	運営形態	自治事務（全部直営）

事業概要
事業概要 岡崎市少年消防クラブは、昭和26年各町単位として自主的に結成され、火の用心、夜回り、防火ポスター・習字等の展示などの火災予防活動を行っていたが、昭和43年 3 月に各クラブの連絡協調を図るため、各小中学校単位に連合クラブが組織された。連合クラブの組織に伴い各クラブの運営の助言、指導をする岡崎市少年消防クラブ運営指導協議会が設立、現在に至っている。 また、平成26年 4 月には、幼年期からの防火・防災教育及び少年少女を中心とした防災活動に参加できる基礎をつくるため、市内の各保育園、幼稚園及びこども園において岡崎市幼年消防クラブが結成された。 対象 ・少年消防クラブ員・幼年消防クラブ員 手段 ・少年・幼年消防クラブに対する運営指導・県消防学校 1 日入校・防火作品の応募・表彰・ジュニア消防士検定・消防教室、防災講習会等の開催支援 意図・成果 少年・幼年消防クラブの運営指導を行うことにより防火防災思想の啓蒙を図る。

指標					
定量指標	指標名	年度	2021年度	2022年度	2023年度
	防火作品応募数 単位：枚	目標値（予測値）	334	338	332
		実績値	217	230	
		達成度（％）	65	68	
	幼年クラブ活動実施園数 単位：％	目標値（予測値）	-		
		実績値			
		達成度（％）	-	-	
定性指標	2021年度達成基準	少年消防クラブについては、募集期間中に防火作品334点を募集する。（募集点数は募集点数算出方法による。）			
	2021年度達成結果	少年消防クラブについては、募集期間中に防火作品217点の応募があった。			
	2022年度達成基準	少年消防クラブについては、募集期間中に防火作品33 2 点を募集する。（募集点数は募集点数算出方法による。）			
	2022年度達成結果	少年消防クラブについては、募集期間中に防火作品230点の募集があった。以前、目標値を下回る結果となった。			
	2023年度達成基準	少年消防クラブについては、募集期間中に防火作品33 2 点を募集する。 教育委員会と連携を密にとり、多くの出展が得られるような計画を図る。			
指標分析	少年消防クラブについては、今後の啓発活動に更なる工夫をこらす必要がある。				

コスト		2021年度決算	2022年度決算
	事業費等(円)	334,528	477,101
	人員	0.7	1

担当所属	消防本部予防課	連絡先	21-9859
------	---------	-----	---------

令和 5 年度 業務活動評価表

評価区分：一般型

業務活動名	婦人自主防災クラブ連絡協議会補助		
分野別指針	暮らしを守る強靱な都市づくり		
個別計画等	消防法等	基礎事業名	火災の予防
根拠法令要綱	岡崎市婦人自主防災クラブ連絡協議会補助金交付要綱		
事業期間	- ～ -	運営形態	自治事務（補助等）

事業概要
事業概要 昭和56年 8 月に婦人自主防災クラブを結成（ 3 クラブ60 人）し、活動を開始した。婦人自主防災クラブは、自主的に組織された防災組織で、家庭や地域における防火・防災の知識や怪我などに対する応急処置の方法を身に付け、災害などの被害を軽減を図るとともに、地域の防災リーダーとして地域住民の防火思想の普及及び高揚に資することを目的としている。 対象 31クラブ 545 人（令和 5 年 4 月 1 日現在） 手段 婦人自主防災クラブ連絡協議会が開催する新クラブ員消防教室、クラブ活動研修会、応急手当訓練、炊き出し訓練等に対する助成 意図・成果 「災害のない明るい街づくり」を目指し、火災予防の知識や日常起こりうる急病、怪我などに対する応急処置の方法を身につけることにより、火災等から生命財産を保護し、被害の軽減を図るとともに防災リーダーとして、地域住民の防災思想の普及及び高揚に資することを目的とする婦人自主防災クラブの活動を促進する。

指標					
定量指標	指標名	年度	2021年度	2022年度	2023年度
	婦人自主防災クラブ普通救命講習受講者数 単位：人	目標値（予測値）	200	200	300
		実績値	189	360	
		達成度（％）	95	180	
	- 単位：-	目標値（予測値）	-	-	-
		実績値	-	-	
		達成度（％）	-	-	
定性指標	2021年度達成基準	普通救命講習の受講者の更なる増加を目指すべく、応急手当普及員の養成を積極的に実施していく。			
	2021年度達成結果	新型コロナウイルス感染症拡大により、普通救命講習会が縮小又は延期され、目標値を下回った。			
	2022年度達成基準	新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、普通救命講習を積極的に実施していく。			
	2022年度達成結果	新型コロナウイルス感染症対応が緩和されたことにより、普通救命講習会が増加され、目標値を大きく上回った。			
	2023年度達成基準	普通救命講習の実施回数の増加を促すとともに、コロナ禍により普及した自宅学習のeラーニングを積極的に活用し、働く女性が活動しやすい環境の構築を目指す。			
指標分析	新型コロナウイルス感染症拡大により、普通救命講習が中止又は縮小となり、受講者数が伸びなかった。				

コスト		2021年度決算	2022年度決算
	事業費等(円)	1,170,887	1,378,458
	人員	0.6	0.55

担当所属	消防本部予防課	連絡先	21-9859
------	---------	-----	---------

令和5年度 業務活動評価表

評価区分：一般型

業務活動名	消防団観閲式		
分野別指針	暮らしを守る強靱な都市づくり		
個別計画等	消防法等	基礎事業名	消防団の管理
根拠法令要綱	-		
事業期間	- ～ -	運営形態	自治事務（一部委託）

事業概要	
事業概要	複雑多様化する各種災害と諸般の要求に応えるため、防災活動の中核をしめる消防団員を一堂に会し、消防の団結と士気を高め、合わせて消防防災体制の充実と防災意識の高揚を図るため、各ブロックで消防団観閲式を開催していましたが、平成12年から乙川河川敷で消防団連合観閲式として毎年11月に開催されている式典です。消防団連合観閲式の開催 11月開催 場所 乙川河川敷
対象	岡崎市消防団員1,424人(機能別消防団除く)
手段	全団を乙川河川敷に集結させ、功績のあった消防団員及び消防団の表彰、ポンプ車、小型ポンプ積載車など約90台の一斉放水を実施する。
意図・成果	消防団連合観閲式を実施し、訓練披露、消防団員の表彰を実施することにより消防団員の士気の高揚をはかり、消防団活動の一層の推進を図るとともに、市民の防火意識を高める。

指標					
定量指標	指標名	年度	2021年度	2022年度	2023年度
	参加人員 単位：人	目標値（予測値）	1,428	470（正副団長+各部4人）	950
		実績値	149	462	
		達成度（%）	10	-	
	- 単位：-	目標値（予測値）	-	-	-
		実績値	-	-	
		達成度（%）	-	-	
	定性指標	2021年度達成基準	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響は免れないため、マスク着用、手指のアルコール消毒等、新しい生活様式を守りながら感染対策を万全にし観閲式を行い、消防団員の士気の高揚を図る。		
2021年度達成結果		新型コロナウイルス感染症対策のため、来賓及び参加者を削減し、見学者等の対策も含め、岡崎市民会館で式典のみ実施した。			
2022年度達成基準		コロナ禍の中、昨年は屋内で実施できたので、今年度は、ウィズコロナ時代を考慮し、マスク着用、手指のアルコール消毒等、新しい生活様式を守りながら感染対策を万全にし、屋外で観閲式を行い、消防団員の士気の高揚を図る。			
2022年度達成結果		感染症対策も施しながら、屋外で式典のみならず、車両を用いた分列行進及び一斉放水を実施した。			
2023年度達成基準		昨年同様、感染症対策も行い、晴天時には屋外で式典、分列行進及び一斉放水、雨天時は屋内で式典を行い、消防団員の士気の高揚を図る。			
指標分析	新型コロナウイルス感染症対策のため、内容を見直し、何とか開催できないかと模索した結果、来賓及び参加者を削減し、見学者等の対策も含め、岡崎市民会館で式典のみ実施した。今後もウィズコロナの状況は続くが、社会情勢を注視しながら、屋外での開催に向けて計画しなければならない。				

コスト		2021年度決算	2022年度決算
	事業費等(円)	949,926	2,895,967
	人員	1.7	1.75

担当所属	消防本部消防課	連絡先	21-9872
------	---------	-----	---------